

A novel scoring system based on common laboratory tests predicts the efficacy of TNF-inhibitor and IL-6 targeted therapy in patients with rheumatoid arthritis:a retrospective, multicenter observational study

中川, 仁

<https://hdl.handle.net/2324/1931787>

出版情報：九州大学, 2017, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏名：中川 仁

論文名：A novel scoring system based on common laboratory tests predicts the efficacy of TNF-inhibitor and IL-6 targeted therapy in patients with rheumatoid arthritis: a retrospective, multicenter observational study

(一般臨床検査値による RA に対する TNF 阻害及び IL-6 阻害の有効性予測スコア
—多施設後方視的観察研究—)

区分：甲

論文内容の要旨

現在、複数種類の生物製剤が使用可能となっているが、個々の関節リウマチ(RA)患者に対しどの生物製剤を投与すべきかは明らかになっていない。従って現在の RA 治療ガイドラインでは TNF 阻害剤と IL-6 阻害剤(トシリズマブ、TCZ)は同等の治療として扱われている。本研究ではこの 2 つの抗サイトカイン療法に注目し、個々の RA 患者にどちらの抗サイトカイン療法がより有効かを治療開始前に予測できるような指標を作る事を目的とした。

まず、新規 RA 患者における IL-6 と TNF- α の mRNA 発現の測定ではこれらの逆相関が示され、RA 病態における責任サイトカインの存在が示唆された。次に 98 例の RA 症例の検討では血小板、ヘモグロビン、AST、ALT が TCZ による治療効果と相関している事が示され、一方で TNF 阻害剤ではこれらと治療効果の間に相関を認めなかった。この結果より、この 4 項目の血液検査項目のカットオフ値が ROC 解析で決定され、4 点満点からなるスコアを作成した。次にこのスコアの検証試験を行い、スコア 2 点以上で TCZ の有効性が期待され、逆に 1 点以下で TNF 阻害剤が有利である可能性が示唆された。これは上記の 98 例とは別の 228 例の検証群においても同様の傾向を認めた。

このスコアは一般臨床検査から簡単に求める事ができる。このスコアは IL-6 の生理作用を反映していると考えられ、また検証群においても有効性が確認でき、TCZ または TNF 阻害剤を選ぶ際に有用な指標となりうる可能性が示された。